

第 22 回 全国高等専門学校デザインコンペティション 2025 in 福井 「織りなす」

創造デザイン部門 募集要項

【テーマ：未来を織りなす 脱炭素で実現する持続可能な地域社会へのステップ】

【課題概要】

創造デザイン部門は、持続可能な社会を「織りなす」革新的なアイデアを「脱炭素」の視点から実現させるための具体的な方法を提案してもらいます。各高専が立地する地域において、地域社会が持続するための課題をフィールドリサーチした上で、課題を明確化し、それを解決するための行動に至る具体的なステップを提示してください。また、予選を勝ち抜いた各チームの学生同士がワークショップを通してそのアイデアをよりブラッシュアップし、持続可能な社会の実現に希望を見いだせる場となることを期待します。

*****審査委員長からのコメント*****

我々は集まって住むために都市をつくり、集まって住むことができるような社会基盤や社会システムをつくりあげてきました。しかしそれは見方を変えれば、人間が人間のために自然を開発してきた歴史とみることもできます。その結果、現在の我々が直面しているのは、地球環境を巻き込んだより大きな問題です。将来を見据えると、これまでのように人間の側からだけ見た効率性重視、生産性重視の都市のつくりかた、もののつくりかたは終わりを迎つつあるように思います。これからは人間だけではなく、この地球上で時空間をシェアしている全ての生き物のことを考えた社会づくりが必要不可欠となってくるのではないのでしょうか。

今回の課題では未来につながるための脱炭素な社会づくりの提案を募集します。

これは今後の我々の社会が直面する（もしくはもう既に直面している）問題であり避けられない問い掛けでもあるがゆえに目新しいものではありません。書店に行けば SDGs を謳った書籍は山のように積み上げられているし、ネットを探れば関連情報はたくさん出てきます。もしかしらこのコメントを読んでいる皆さんのなかにも、学校で既に課題として直面した人たちもいるかもしれません。

だからこそ本課題においては、どこかで見たことがあるような提案や、万人受けするような平坦な提案ではなく、誰も見たことがないもの、誰も考え付かなかったこと、センスの良い問い掛けを評価したいと思っています。

細部は粗くても構わない。少々のデザインの不備も仕方がない。そのアイデアを見た時に、新鮮な驚きを与えてくれるようなもの、心をときめかせてくれるような切り口、そんな提案を見てみたい。

柔軟な発想力と想像力、そして君達の創造力に期待したいと思います。

1. 提案条件

- ① 2050 年カーボンニュートラルな脱炭素社会を目指し、次の 2 つの視点から持続可能^{*1} な社会につながる提案をすること。
 - ・「創造性^{*2} のあるサービス（こと）」の「プロセスデザイン（どのようなストーリーで地域の人々を支援するか）」を提案すること（「こと」興しの仕掛けのみに特化する「プロセスデザイン」も含む）。
 - ・「創造性のある製品（もの）」について提案すること。ただし、「製品（もの）」がどのようにカーボンニュートラルを実現する脱炭素社会に繋がるかについての「プロセスデザイン（ストーリー）」も併せて提案すること。
 - *1 持続可能については、SDGs(持続可能な開発目標)などの国際的な取組みがあるので参考にすること。
 - *2 創造性とは、多様な人々による様々な視点からアイデアを何度も再構築することにより生まれたものを指す。
- ② 社会あるいは都市や地域（人、企業、自治体、NPO、住民組織など）が抱えている課題を解決するための「こと」を興すプロセスならびに「もの」を提案すること。社会あるいは地域課題を捉えるには、“現場の情報に当たる”必要があるが、その方法としては、まず仮説を立て、その仮説を検証するフィールドワーク（観察）、インタビュー調査などが考えられる。できれば、当事者（問題を抱えている人）の声を直接聞き、そして共感（empathy）して問題の本質を探り当てるように心がけること。
- ③ プロセスデザインは、人（当事者）のニーズから出発し、目標とする社会、地域を実現するためのプロセスを提案するものとしてよい。そのプロセスには、地域資源や既存技術・実現可能と思われる技術・知識をどう融合させるか、地域内外の人々がどうコミュニケーションするか、といった内容が含まれます。提案には、こうしたプロセスに高専がいかに関わるか、その役割について可能な限り示すこと。

2. 評価指標

提案は、次の五つの視点（地域性、自立性、創造性、影響力、実現・持続可能性）から評価する。したがって、以下の①～⑤の内容を含むように留意すること。

- ① 地域性（地域の事情を踏まえた施策であること）

客観的なデータにより各地域の事情や将来性を十分に踏まえた持続可能な提案であること。
- ② 自立性（自立を支援する施策であること）

地域・企業・個人の自立に資するもの、「ひと」「しごと」の移転・創造を含み、特に外部人材の活用も含め「ひと」「もの」づくりにつながる提案であること。
- ③ 創造性（多様な人々により熟考されていること）

創造性を意識した提案であること。創造性は、多様な人々によるさまざまな視点からアイデアを何度も再構築することにより生まれるといわれている。創生事業は、一つの分野だけで解決できるものではない。そこに関係する様々な人々を巻き込んで生まれた創造性のあるアイデアを提案すること。
- ④ 影響力（課題解決に対する影響力）

本テーマに応募する原動力となった課題に対して、提案したアイデアがいかにパワフルで影響力がありそうかを評価する。一過性のものではなく、深く・強いアイデアを期待する。
- ⑤ 実現・持続可能性（2050 年までの実現可能性が 1 % でも見いだせればよい）

万人が納得できる論理的根拠に基づく提案であること。

3. 競技方法

創造デザイン部門は、予選と本選に分けて実施する。

(1) 予選

提出されたプレゼンテーションポスターA3 サイズ（横向き）1 枚（電子データ）に基づき、地域性、自立性、創造性、影響力、実現・持続可能性の視点から審査員による審査を行い、その結果から本選に出場する 8 点の作品を選出する。なお、予選時の審査得点は上記の五つの視点について各 10 点、合計 50 点満点にて評価を行う。審査結果は、デザコン 2025 in 福井 公式ホームページ（<https://デザコン.com/>）に公開する。審査結果は 10 月上旬に公開予定である。

(2) 本選

本選は 2 日間で実施する。本選 1 日目は、予選結果連絡時のフィードバックコメントを基にブラッシュアップしたパワーポイント資料および A1 サイズのポスターを持ち込み、ポスターにてプレゼンテーションを行う。そのうえでワークショップを行い、さらにパワーポイント資料をブラッシュアップする。本選 2 日目は、1 日目にブラッシュアップしたパワーポイント資料を使用したプレゼンテーションを行い、審査員の評価によって賞を決定する。

1 日目：応募チームごとの A1 サイズのポスターによるプレゼンテーション、各種ワークショップ、パワーポイント用プレゼンテーション資料用のブラッシュアップ

2 日目：パワーポイント資料を使用したプレゼンテーション、審査員講評

詳細は、10 月上旬にデザコン 2025 in 福井 公式ホームページに公開される本選出場要項にて改めて説明する。

4. 応募方法等

Web による手続きとする。Web による手続きを利用するためには、Google アカウントが必要となる。なお、創造デザイン部門では、提案資料の電子データファイルのアップロード（Web）による提出を求める。

(1) 募集要項に対する質疑

募集要項の内容（課題内容、設計条件）に関する質疑応答は行わない。ただし、日程および提出方法などの事務的な質疑については、下記の期間・方法にて受け付ける。

- ① 受付期間：2025 年 4 月 21 日（月）～ 5 月 2 日（金）17:00
- ② 質問方法：デザコン 2025 in 福井公式ホームページ（<https://デザコン.com/>）の創造デザイン部門の「質疑受付」から行う。
- ③ 回答公開：5 月中旬から 5 月下旬に、公式ホームページの創造デザイン部門の「質疑応答」にて、回答の内容を公開する。

(2) 予選エントリー時の提出物

プレゼンテーションポスターA3 サイズ（横向き）1 枚（電子データ）を提出する。

※ 提出データのファイル形式は、PDF（.pdf）とすること。

※ データサイズの上限は 300 MB であるが、ファイルサイズはできるだけ小さくすること。

※ ファイル名は、[部門名称_高専名(・キャンパス名)_代表学生氏名]とすること。

例) 創造_福井_高専太郎.pdf または 創造_仙台・名取_仙台太郎.pdf

(3) 予選エントリー手続き

- ① 受付期間：2025 年 7 月 21 日（月）～ 8 月 21 日（木）17:00
- ② 応募方法：デザコン 2025 in 福井 公式ホームページの創造デザイン部門の「エントリー」から行う（Google アカウントが必要）。なお、予選エントリーフォームで入力する「提案概要」の内容は、審査に影響しない。
- ③ 受領確認：エントリーの受付確認に関しては、エントリーで入力された代表者および指導教員のメールアドレスに内容受付のメールを自動配信する。メールアドレスについては入力ミスがないように十分確認すること。エントリー漏れがあった場合には、指導教員が下記メールアドレス宛に 8 月 22 日（金）までに連絡すること。

| |
|---|
| 福井工業高等専門学校 創造デザイン部門事務局 e-mail ; dc-25sozo@fukui-nct.ac.jp |
|---|

(4) 本選への参加

本選は、2025 年 11 月 8 日（土）および 9 日（日）に実施する。本選の詳細 [本選出場要項等] は、10 月上旬にデザコン 2025 in 福井 公式ホームページ (<https://デザコン.com/>) に公開するとともに、予選通過者の指導教員にメールにて直接通知する。

(5) 参加費

- ・ 予選審査費は 1 作品につき 2,000 円とし、本選参加者は 1 名あたり 1,800 円とする。
- ・ 予選審査費は、2025 年 8 月 21 日（木）までに指定の口座に振込むこと。
- ・ 本選参加費は、2025 年 10 月 15 日（水）までに指定の口座に振込むこと。
- ・ 振込まれた予選審査費および本選参加費については、いかなる場合においても返金には応じない。
- ・ 振込者名は、「部門名称（空白）高専名の略称（空白）担当者名」とすること。

例) ソウゾウ フクイ コウセンタロウ

【振込口座】

| |
|--|
| 銀行名：福井銀行 店 名：鯖江支店 店 番：200 口座種別：普通預金 口座番号：6069987 口座名義：第22回 全国高等専門学校デザインコンペティション事務局 学生課長 田中 賢一 ダイニジュウニカイ ゼンコクコウトウセンモンガッコウデザインコンペティションジムキョク ガクセイカチョウ タナカケンイチ |
|--|

5. 応募資格

- (1) 高等専門学校に在籍する本科生および専攻科生とする。
- (2) チームは3名で構成すること。複数の高専との連合も可とする。
- (3) チームメンバーの所属する学科や専攻は問わない。
- (4) 同一人物が他部門も含め複数のチームに参加することは認めない。
- (5) デザコン 2025 in 福井では、空間デザイン部門・創造デザイン部門・AM デザイン部門の3部門のうち1部門にしか応募できない。ただし、この3部門で予選通過できなかった場合には、構造デザイン部門への応募を可とする。

6. 審査方法および審査員

審査方法は予選、本選とも審査得点をもとに審査員の協議によるものとする。

委員長：吉村 有司（東京大学 先端科学技術研究センター 特任准教授）

委員：安田 圭奈江（京都外国語大学 共通教育機構 講師）

委員：桶谷 治寛（HARU 環境技術士事務所 代表）

ファシリテーター：田中 謙次（株式会社 田中地質コンサルタント 代表取締役社長）

7. 表彰

- | | |
|------------|----|
| (1) 最優秀賞 | 1点 |
| (2) 優秀賞 | 2点 |
| (3) 審査員特別賞 | 1点 |

8. 著作権等

提出作品の著作権はそれぞれの製作者に属するが、主催者はこれを書籍等の印刷物への掲載また Web 等で公開する権利を有し、これを妨げないものとする。オフィシャルブックには応募作品とともに参加者、指導教員の氏名が記載される。また、肖像権の取り扱いについては、参加者からの申し出がない場合、肖像権の使用に同意を得たものとする。なお、予選に提出された応募作品についても公開を予定している。

9. 付記

- (1) 応募作品には他のコンテスト、コンペティションに応募したものを使用してはならない。
- (2) 応募要項に違反した場合は失格となる場合がある。
- (3) 応募作品は返却しない。
- (4) 応募作品の取り扱いにおいて、大会事務局は最善の注意を払うが、天災等の不可抗力による損傷に関しては、責任を負いかねる。また、輸送時の損傷についても大会事務局は一切責任を負わない。
- (5) プレゼンテーション資料の作成にあたっては、全国高等専門学校デザインコンペティションの趣旨に則った適切な表現を用いること。